

## 令和6年度第2回健康日本21かりや計画推進委員会 会議録

令和6年10月17日（水）午後1時30分

刈谷市総合健康センター3階 講座室

【出席】 平川委員、宮地委員、染谷委員、宮田委員、稲垣委員、山口委員、野々山委員、小室委員、清水委員、正木委員、杉浦委員、荒河委員、山本委員、中村委員、伊藤委員

【欠席】 1名（鈴木委員）

【事務局】 加藤福祉健康部長、杉浦福祉健康部政策監、新實健康推進課長、石川課長補佐、塚本健康企画係長、笠井成人保健係長、羽田野健康増進係長、高橋主任主査、矢田杉原子育て支援課長、角岡課長補佐、青木課長補佐（母子保健第2係長兼務）、宮地母子保健第1係長、伊藤子育て支援係長

【傍聴人】 2名

【次第】 1. 開会

2. 議題

（1）第3次健康日本21かりや計画の計画（案）について

3. その他

4. 閉会

### 1 開会（事務局）

配布資料の確認（事務局）

### 2 議題

（1）第3次健康日本21かりや計画の計画（案）について

事務局より説明

（質疑応答）

委員：第2次計画の目標の達成状況が悪化しているのはなぜか。また、健康寿命の現状値で令和2年を用いているのはなぜか。他にも、数値目標のほとんどが40歳から69歳であるが70歳以上はどうか。

事務局：現在刈谷市が把握できる健康寿命の最新値が令和2年の値のため、令和2年の数値を現状値としている。目標値が40歳から69歳が多いのは、データソースの関係であり、例えば特定健診の関係では、特定健診の対象者が40歳以上となるためである。他にも、基本方針1のライフコースアプローチの目標値としては、あえて40歳から64歳の壮年期という値を指標としている。

委員：引きこもっている高齢者を外に出すことが課題だと思う。胃がん検診の受診率が低くて驚いている。これは、刈谷市の検診の案内をした者に対する比率か。

事務局：市内の国民健康保険加入者のうちのがん検診受診者数である。

委員：そうだとすると状況がつかみづらい。現役で働いている人や70歳以上の受診率を確認したい。なぜ検診を受診しないかを疑問に感じてほしい。

事務局：昨年、市民に行った健康づくりに関する意識調査の中で、がん検診を受けていないと回答した者は、男性全体で58.2%、65歳以上から74歳では32.4%であった。女性全体では47.0%、65歳から74歳では46.3%、75歳以上では44.9%であった。参考としてお伝えする。

委員：基本理念に「みんなが」「笑顔で」を新たに加えた市の想いは何か。また、ライフコースアプローチを、基本方針1にした理由は何か。

事務局：笑顔が健康に繋がること、みんなが笑顔になってほしい、笑顔を目指してほしいという想いで「笑顔」を入れた。1人が健康なだけではなく、刈谷市民全員がみんなで一緒に健康であってほしいという想いで基本理念を少し変えた。

ライフコースアプローチという考え方自体が、国の健康日本21（第3次）計画の中でも特徴的であり、ライフコースアプローチの観点を持ってこれから行政も取り組みたいと考える。健康な高齢期を迎えるためには、その前の現役世代の時の取り組みが非常に重要だということも計画全体としても大切であり、県にならって基本方針1とした。

委員：やはり笑顔というのは健康など様々なことが揃わないとならない。私も笑顔という言葉が大好きなので良かったと思う。

施策を見ると啓発が多いが、市が積極的に働きかける施策、例えば健康マイレージや健康づくりチャレンジ宣言のような、行政から働きかける健康づくりというものも今後もっとあっていいかと思う。

事務局：補足だが、第2次計画で運動習慣、肥満、飲酒に関する目標の達成状況の悪かったことを踏まえながら、今回の計画を策定しているという認識でいる。

事務局：加えて補足だが、がん検診を受診しない理由を市としても探っている。一般的に言われている、がんが見つかる怖い、見つかったらどうしよう、その検査は痛いのではないか、などの不安を払拭していく啓発も必要だと思う。NHKでがん検診に関する番組があり、そういうものを見て市職員も知恵をつけたい。がん検診を受けたらインセンティブがあるという仕組みも大事かと思う。また、先生（医師）方からがん検診の案内をしてもらうのも必要かなと思う。

委員：がん検診を受けるための費用を負担に感じて検診を受けないという方も中にはいるだろう。費用を無料にすると受診率が向上するのではないか。

委員長：以前、協会けんぽと一緒にがん検診を受けない理由を調査した際、時間がどれだけかかるのか、どれだけ恐ろしいことをされるのか、痛いことをされるのかが分からないという理由であった。こどもを預かってもらえるのかなどを考えると面倒くさくなっ

て行かなくなる。今一度、行かない理由の整理が必要。費用だけでは多分解決しないと思う。医師会の先生方と協力し、そんなに怖くないよという啓発をすることが必要。やはり、先生（医師）から勧められると行く人が多い。

委員：医師としてがん検診を勧めるが、本人が「やりません」という方に対して、その理由までは介入できない。怖いから、費用が高いから、などと様々な理由があると思うが、1人1人、同じ理由ではないので、根気よく啓発していくしかない。中小企業の方たちの配偶者は全く検診を受けていない状況。そういう方にも、がん検診を受けたければ保健センターに連絡するよう伝えるが、それで初めて問い合わせているような状況で、現役世代の配偶者に対するがん検診の啓発が漏れていると思う。

委員長：調査をして、何かそういったヒントがあればと思う。

委員：こどもの運動について新たに指標が入ったが、どういった活動が運動になるのかが分かりにくい。また、足腰に痛みのある高齢者を減らすという指標があるが、慢性的な腰膝の痛みがありながらも自分で痛みを制御しながら、体を上手に使って体を動かしているという方も非常にたくさんいる。

事務局：相談しながらやっていきたいと思う。

委員：全てが保健センター中心ではなく、庁内の担当課や関係団体と協力していくと良い。

事務局：関係の各課と連携して全庁的に取り組んでいくものだと思っている。第3次計画からは、推進委員会と庁内各課の担当者が集まる会議を引き続き継続的に行っていく。行政だけではなく、時には民間の力を借り、各関係機関の協力をいただきながら取り組みたい。

委員：住民の力も大きいので、市民と一緒にやれるようになれば良いと思う。

委員長：委員の皆さんは様々なネットワーク持っているため、それをうまく利用できると良い。

委員：がん検診があることを私自身は知らなかった。また、女性やこどもというカテゴリーが計画に入ってきたことに意味があると強く感じる。小さい頃は皆一斉に学ぶ時期だと思うので、若い世代から知っていたら、健診・検診に親しみを感じると思う。

委員長：こどもから検診に行かないのかと言われると、行こうかなと思うという。以前、大学生に、両親を検診に行かせようというプロジェクトを考えたことがあり、確かにそうだと思う。

委員：この計画の本文にはカタカナが多いと感じる。カタカナでなければ伝わらないこともたくさんあると思うので、用語解説を充実させてほしい。

委員長：PDCAサイクルについて、目標の見直しもするというのなら、Pの上に目標という項目の枠があると良い。

委員：本文の中でページ下部に注釈はあるが、資料編の用語解説には無いものがある。最終校正までに対応してほしい。

また、健康日本21かきりや計画の特徴、刈谷市の思いや強調したいところを教えてください。

事務局：用語解説について、最終的に体裁を整える段階で調整したい。

この計画をつくるうえで心がけたことは、第2次計画で悪化していた部分について、より積極的に取り組んでいくことである。

また、刈谷市は、事業所が非常に多い産業都市であるため、働き盛り世代が多いことが特徴であり、事業所やそこで働く従業員、従業員の配偶者へのアプローチが、市全体の健康状態の向上に効果的だと思っている。そのため、第3次計画では、事業所に対する健康経営の取り組みを行っていききたい。

委員：刈谷市らしさというものがあるはずなので、そういったところの推進をしていき、積極的な政策をお願いしたい。

委員長：目標設定には、熱意や理念が必要。思いがあるということが分かるように、なぜこの目標を立てたのか、刈谷市はこういう背景があると伝わった方がよい。僕らもそれに沿ってやっていこうという共通認識で、思いを文章にしたほうがよい。

委員：今回の計画は令和7年度から18年度までなので、目標値は令和18年度ではないか。

事務局：国が目標の年度を前倒しで設定するというやり方を第3次計画から始めた。その考え方に則って、刈谷市も目標値の達成年度を18年度ではなくて、実際に評価対象となる16年度にしている。

委員：どうしてこういう目標値を立てたのかが非常に大事。これを達成するために、4年ごとに評価するなどして、進行状況をチェックできるとよい。

また、具体的な目標の数値を上げるとよい。計画のための計画のような気がする。市民に分かりやすい計画にしてほしい。

委員長：委員の力も借りながら、達成のために頑張っていきたい。

委員：2人に1人ががんという表現が怖く、高齢者が1人でがん検診に行けず、娘と一緒に受診している。また、がんになる前の食育、食生活もしっかりできたらと思う。

委員長：友だち同士だと検診に行きやすい。友だち割引なども考えられる。

委員：中間評価を令和12年度に実施するとあるが、もう少し細かく区切って目標の見直しなどしたほうがよいのではないか。

事務局：数値目標のうち可能なものは毎年評価する。一方で、大きなアンケートを実施しないと評価できないものもある。まずは、一歩踏み出すということで、今まで実施していなかった推進委員会を第3次計画からは毎年実施していく。

委員：推進委員会のやり方について、大人数では意見が出にくいので、小グループで実施すると意見が言いやすいと思う。

### 3 その他

スケジュールを事務局より説明

### 4 閉会（委員長）